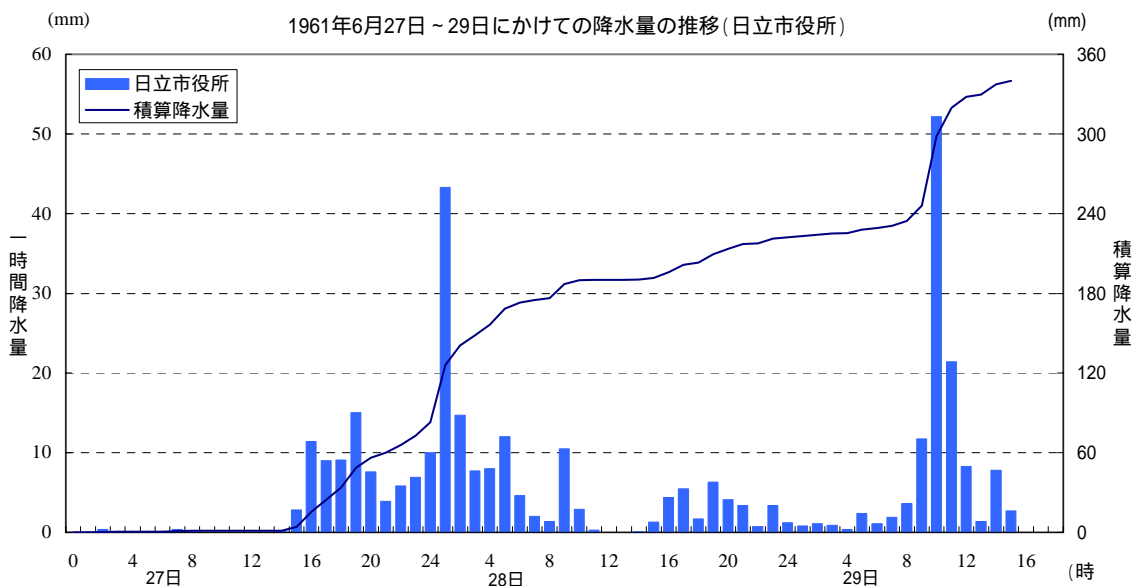


1961年6月27日～29日にかけての梅雨前線豪雨と被害について

この年は6月中旬までは雨の少ない地方が多く、水不足でした。しかし、23日から南海上にあった梅雨前線が活動を活発化させながら北上、24日から本州南岸に停滞するようになりました。また、日本の南から北上してきた熱帯低気圧が、26日には台風第6号となって四国に接近しました。台風は、27日夕あ谷は土佐沖で消滅しましたが、梅雨前線が刺激されて四国、近畿、東海、関東甲信、北陸の各地方で大雨となりました。また、7月3～5日には東北地方や九州地方でも大雨となりました。気象庁は6月24日から7月10日の雨を「昭和36年梅雨前線豪雨」と命名しました。日立市でも、27日の夕方から28日の明け方にかけてと29日の朝から昼にかけて、1時間に40mmを超える強い雨が降り、総降水量は344.6mmに達しました。

日立市役所における降水量(6月27日～30日)

日	日降水量	最大1時間降水量	時刻
27	82.8	-	-
28	139.5	43.3	00:00～01:00
29	118.9	52.2	09:00～10:00
30	3.4	-	-
合計	344.6	-	-



昭和36年 異常気象資料

一、昭和36年6月27日～29日の梅雨前線豪雨と被害について

1. 気象概況

今年の梅雨の最盛期における前線の活動は、本邦ふきをんを掩っていた太平洋高気圧が東に後退し、ルソン島東方の熱帯低気圧の北上により6月24日頃より次第に活発となり、東日本および中部日本が雨となり当地でも約80ミリに達した。

25日には梅雨前線は本州の南岸に停滞しはじめ、時々小雨があつたが、雨量は10mmに達しなかつた。

26日朝にいたり台風6号が四国沖を北上するにつれて、梅雨前線の活動が活発になるとともに、中部地方や関東地方に非常に湿った空気が南東風とともに侵入しはじめ中部山岳および海岸地帯で集中的に豪雨が発生し、27日もつづいた。この豪雨の区域は次第に東に移動し、27日昼頃より甲信地方や関東におよんだ。台風6号は27日夕刻頃四国沖合で消滅したが、27日夜半頃当地方は梅雨前線の通過により、雷鳴を伴い1時間最大量43.3ミリに達する豪雨があり、日雨量186ミリに達する記録的な大雨となり、市内にも崖くずれ、浸水、その他出水による被害が生じた。なおこの日雨量は昭和33年の狩野川台風（台風22号）における159mmを凌ぐ極値を記録した。

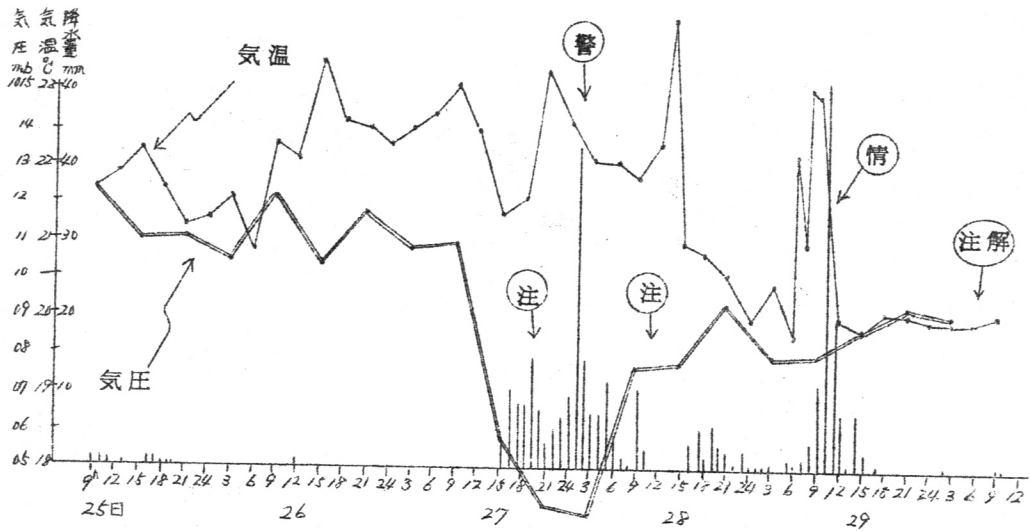
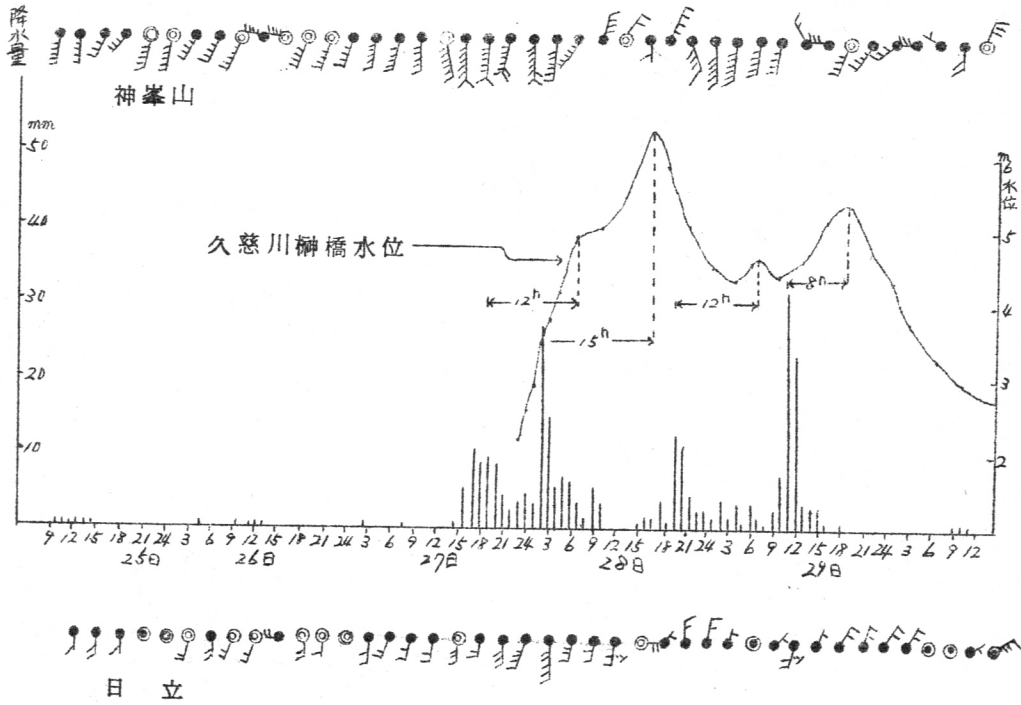
28日梅雨前線は一旦県南部より房総ふきんに南下したが、29日には再び満州方面より気圧の谷の接近により北上し、29日午前当地方に停滞したため再度集中豪雨に見舞われて、9時より10時までの1時間に52.2mmとさらに記録を更新する大雨となつた。この雨は30日の夕刻頃までつづき総雨量は27日以降348mmに達した。（天気図N01.2参照）

2. 警戒の状況

27日18時 15時よりの降水量3時間20mmを越えたので第1回水戸気象台

第 2 図

1961. 6. 25~29 梅雨前線豪雨における気象変化図



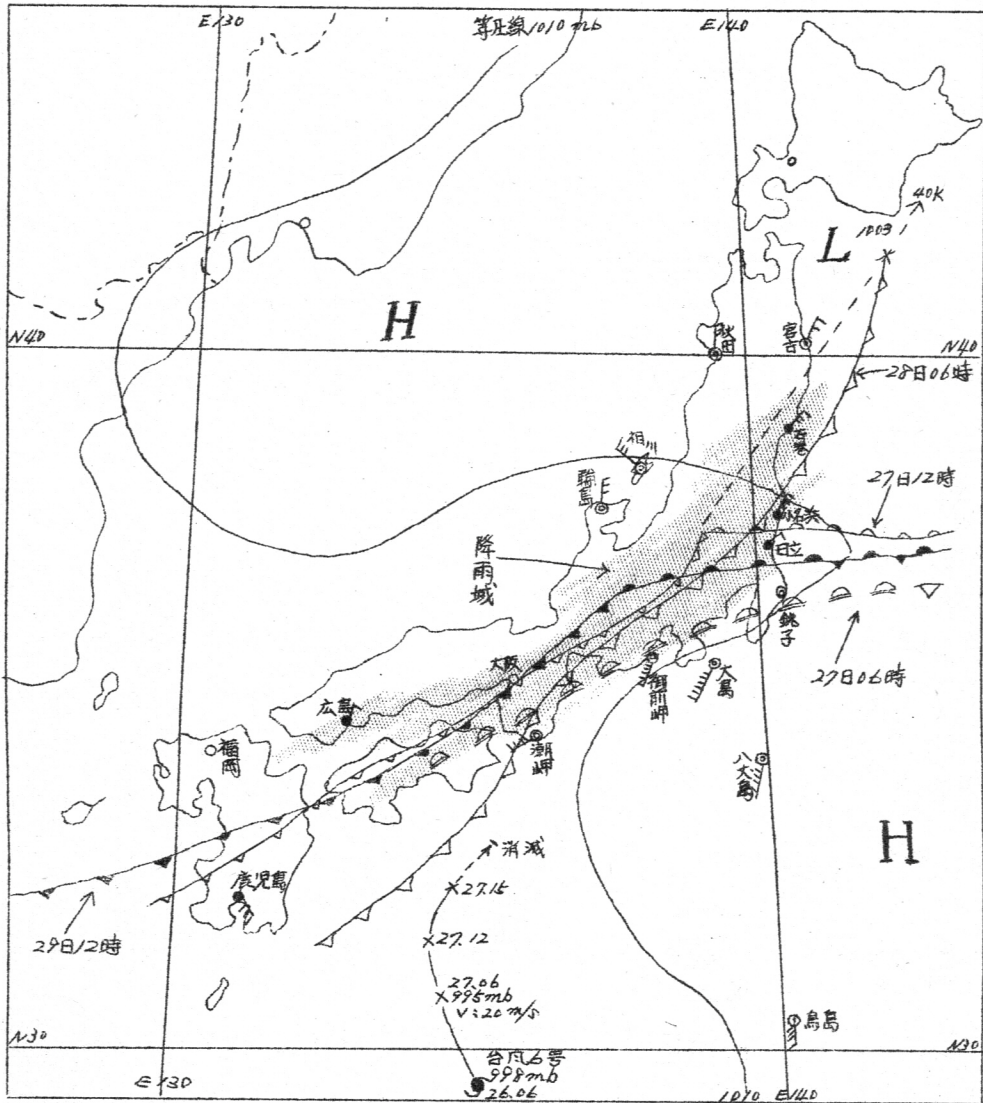
に通報

27日21時20分	大雨洪水注意報発表	水戸地方气象台
28日01時00分	大雨洪水警報 //	"
10時45分	解除 //	"
"	大雨洪水注意報発表 //	"
29日11時00分	大雨洪水情報 //	"
30日06時20分	大雨洪水注意報解除 //	"

第 1 図

実況は29日12時現在

昭和36年6月27~29日 梅雨前線活動説明図

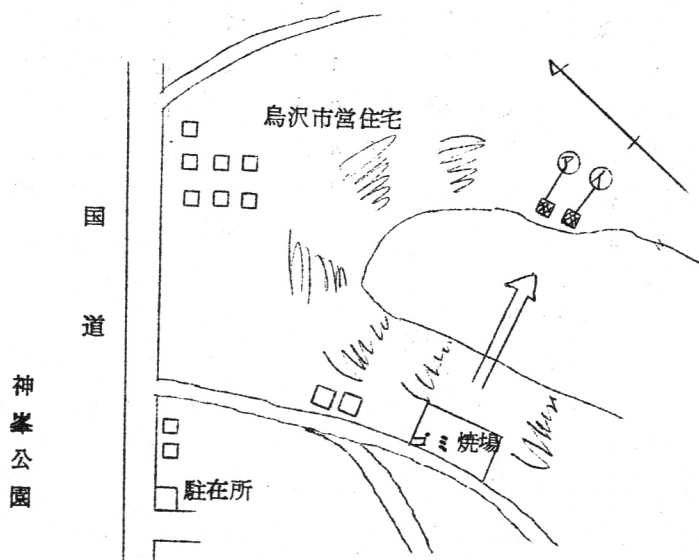


3. 災害の状況

(1) 宮田石倉地内崖くずれによる家屋埋没

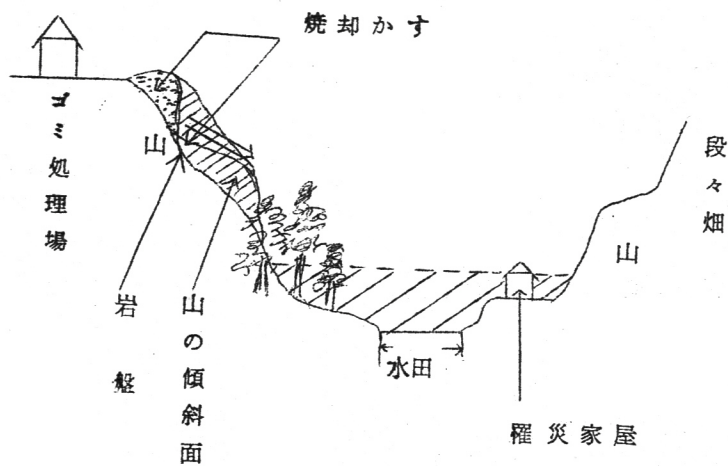
第3図の1

① 地図



第3図の2

② 地形



③被災状況

29日14時頃、堆積物流出により2棟の家屋が埋没して7名が死亡。

(2) 居宅埋没・倒壊・傾斜

- | | | | | |
|---------------------|--------------------|----|----|----|
| ① 浜の宮4の3 | 崖くずれによる家屋倒壊 | 1棟 | 傾斜 | 1棟 |
| ② 東仲町1の4 | 崖くずれによる家屋倒壊 | 1棟 | | |
| ③ 神田町1の4 | 土砂流入家屋倒壊 | 1棟 | | |
| ④ 助川下町 | ナゴヤ靴店裏崖くずれのため家屋傾斜 | | | |
| ⑤ 大平田 | 田岡建設飯場2棟8戸埋没家財道具搬出 | | | |
| ⑥ 久慈はなれ山下 | 崖くずれ倒壊 | | | |
| ⑦ 久慈泉町 | 崖くずれによる家屋倒壊 | | | |
| ⑧ 諏訪鉾山社宅 | 土砂くずれによる1棟倒壊 | | | |
| ⑨ 中里において | 風により屋根のとんだもの二戸 | | | |
| ⑩ 久慈海岸道り崖くずれによる倉庫半壊 | | | | |

他に物置等の崩壊したもの等あり

(3) 崖くずれ

- | | |
|----------------|-------|
| ① 本山事務所裏 | 山くずれ |
| ② 神峯グラウンド | 土砂くずれ |
| ③ 山根3の1 | 崖くずれ |
| ④ 稲荷山日立機材北側 | 土砂くずれ |
| ⑤ 旭町 常磐館下土砂くずれ | |
| ⑥ 宮田母子寮大森分室裏 | 土砂くずれ |
| ⑦ 初崎 鉾山クラブ崖崩壊 | |
| ⑧ 大平田ダルマ石と梅林の間 | 崖くずれ |

(9) 久慈町 4ヶ所

- イ 三王閣ふきん 10 m
- ロ 千福寺裏 10 m
- ハ 築港管原建設裏 10 m
- ニ 久慈支所下浜の坂 15 m

(10) 田尻地先 新旧国道ふきん土砂くずれ

- (11) 紅葉台 崖くずれ 16 m
- (12) 悦子入口 崖くずれ 4 m
- (13) 西上淵 土手くずれ2ヶ所 20 m, 10 m
- (14) 宮田川桐木田 桃太郎綿屋裏沿岸1部流失
- (15) 宮田川沿岸大森町一高前(堀越徳兵衛)床下一部流失
- (16) 東平霊園墓地 埋没50m³
- (17) 日立二高校庭南東隅 崖くずれ
- (18) 県道本山洞門先100m地点 崖くずれ
- (19) 大角矢社宅入口ふきん 崖くずれ

外に小規模のもの多数あり

排水路決壊、農道橋流失、路肩くずれ等こまかいもの少々あり

その他崖くずれ、土砂くずれにより通行不能箇所14ヶ所

(4) 家屋浸水

床下浸水 約180戸

(5) 農作物

(1) 冠水流失面積

田 231アール

畑 105アール

(2) 作物被害

煙草倒伏 33アール(内3割は切損)

小麦 オダ掛け発芽55アール

(6) 船舶

(1) 流失 4隻(2隻~久慈漁港、2隻~田尻)

(2) 座礁 2隻(久慈漁港)

市民の所有で那珂湊港で流失せるもの

85トン1隻、約35トン4隻(全部発見した)

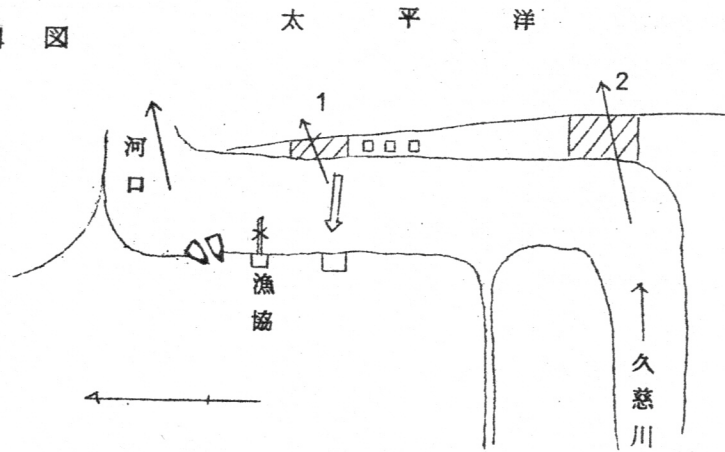
(7) 久慈川の状況

(1) 久慈川の水位(櫛橋)

27日	午後	5時00分	6.20	通報水位 2.50^m
28日	正午		5.48	警戒水位 3.50^m
	午後	3時00分	6.10	
	午後	5時30分	6.30	(最高)
	午後	12時00分	4.48	
29日	午前	7時00分	4.28	
	午後	2時00分	4.90	
	午後	6時00分	5.25	
	午後	10時00分	4.00	

(2) 河口の状況

第 4 図



1. 自然決壊箇所 2. 消防による切りひらいた箇所
 ↓ 波浪による被害箇所 ◯ 船の座礁位置
 † さん橋流失位置

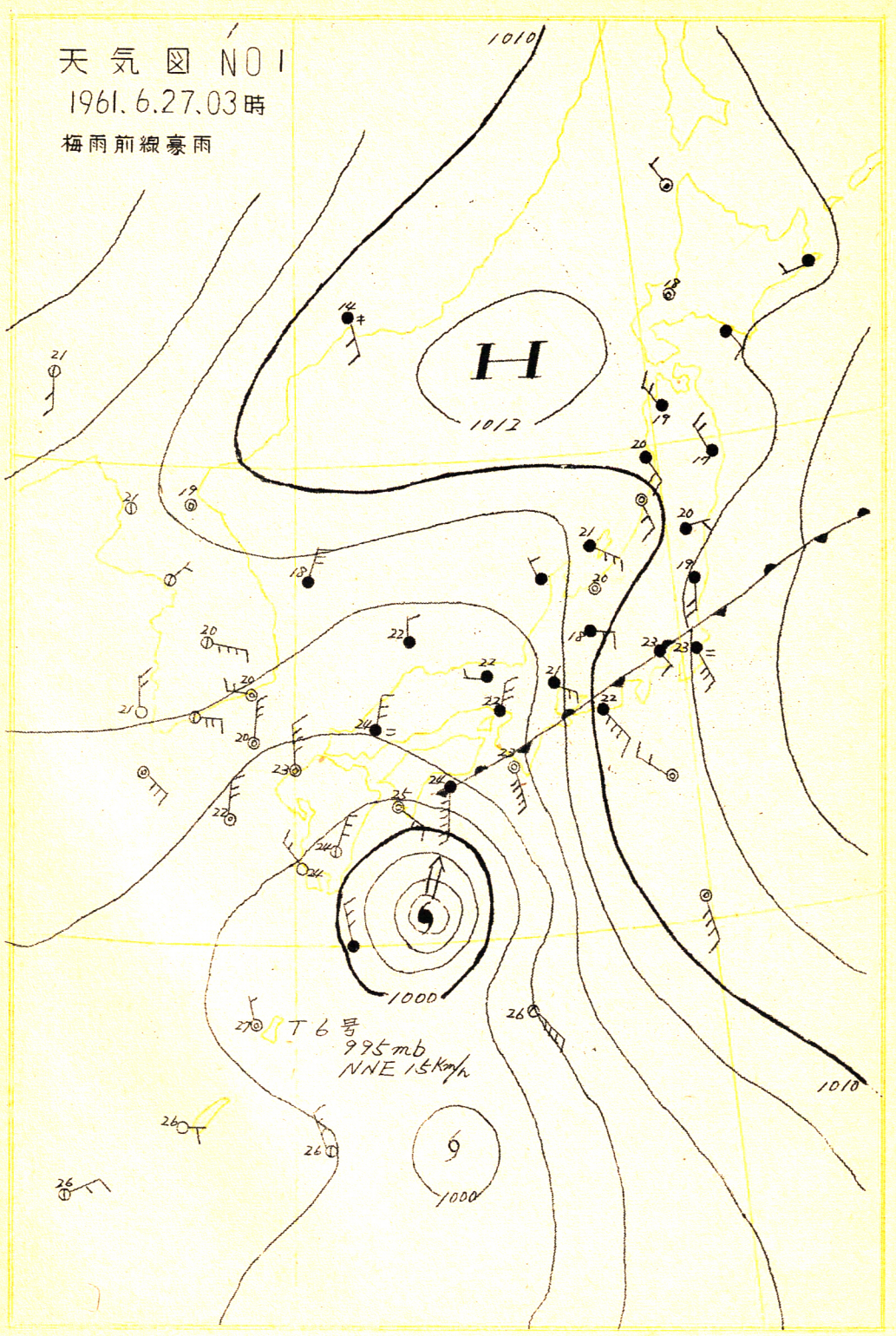
(8) 損害額(市関係のみ)

土木、建築関係費	76.694	単位千円
災害対策、扶助、補償費	3.627	
(内 災害救助関係)	(2.237)	

天氣圖 NO 1

1961.6.27.03時

梅雨前線豪雨



天気図 N02

1961.6.29.03時

梅雨前線豪雨

